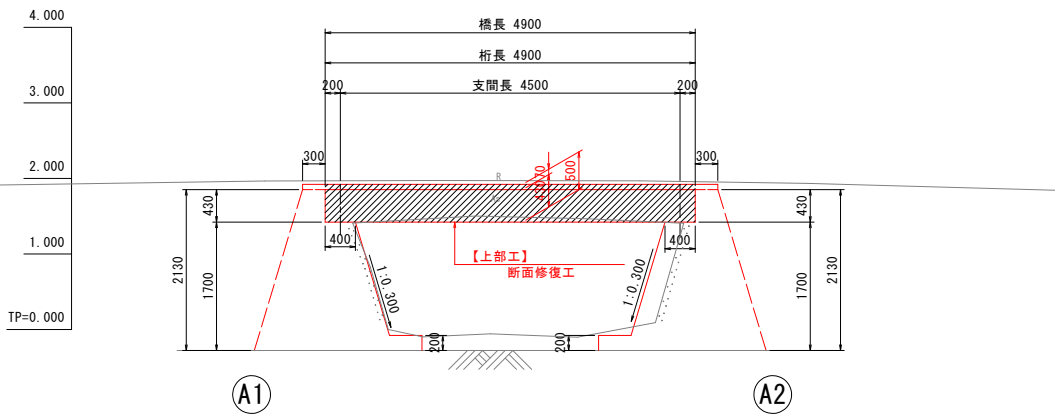
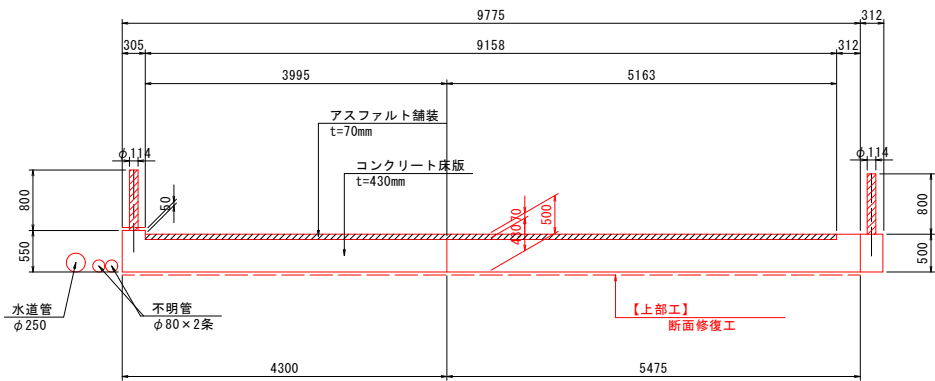


補修一般図 S=1:50
木津姫田線1号橋

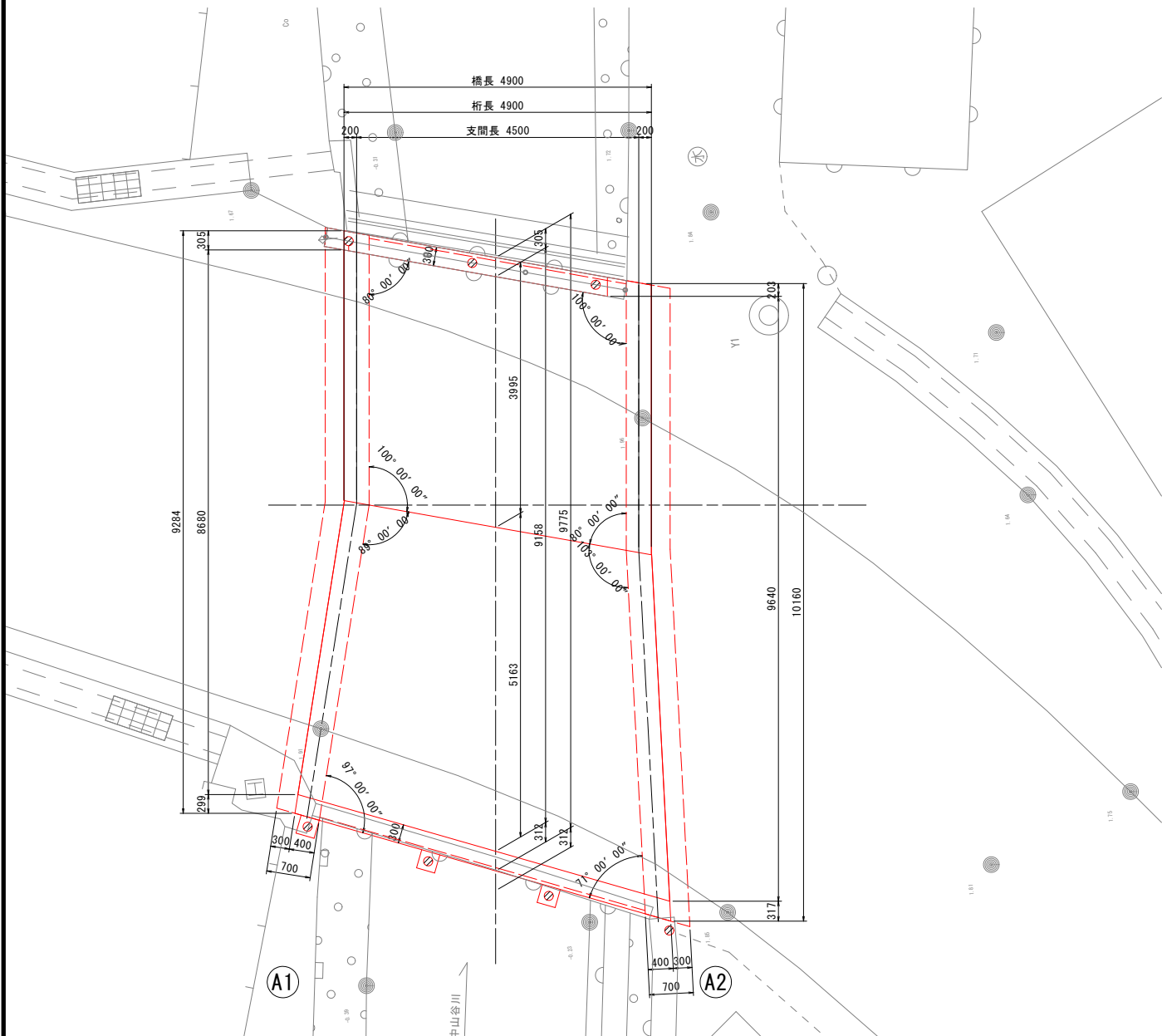
側面図



断面図



平面図



設計条件

道路条件	
路線	市道 木津姫田線
道路規格	不明
設計速度	不明
設計荷重	不明
大型車交通量	-
計画交通量	-
交差物件	一級河川吉野川水系 中山谷川
幾何条件	
橋名	木津姫田線1号橋
橋長	L=4.900m
桁長	4.900m
支間長	4.500m
総幅員	9.284m~10.160m
有効幅員	8.680m~9.640m
斜角	$\theta = 70^{\circ} 00' 00''$ (道路中心)
平面線形	R = ∞
縦断勾配	
横断勾配	
構造形式	
上部工	RC中実床版橋
舗装	アスファルト舗装 t=70mm
下部工	重力式橋台 (A1, A2)
基礎工	直接基礎
支承	-

木津姫田線1号橋

図面番号	第 1 号	図面総数	全 3 葉			
工事名称	木津姫田線 1 号橋橋梁補修工事					
図名	補修一般図		縮 尺：図 示			
製作年月	令和 6 年 8 月	所 属 年 度	令和 6 年 度			
係員	課 長	副課長	係 長	係 員	設計・製図	照 査
鳴 門 市 都 市 建 設 部 土 木 課						

補修詳細図 S=1:30
木津姫田線1号橋

橋 面

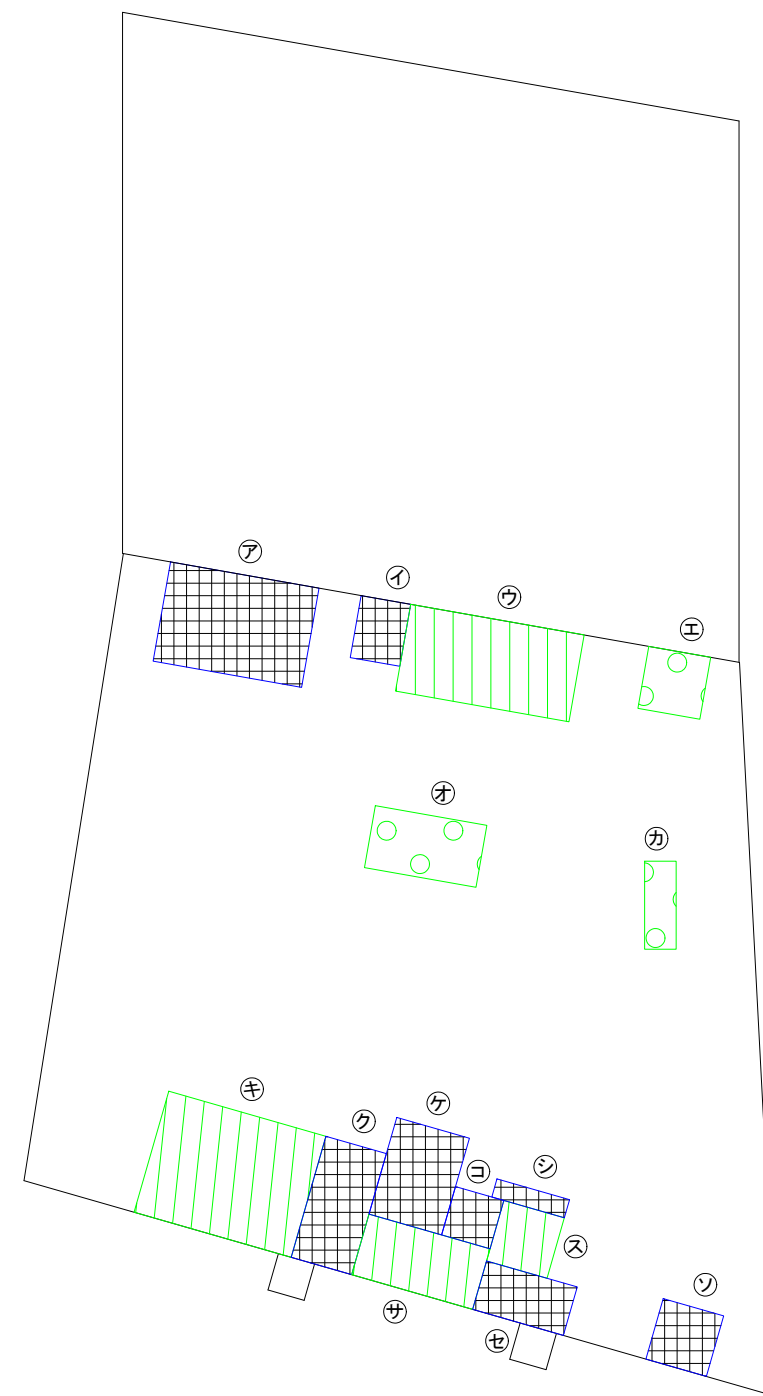
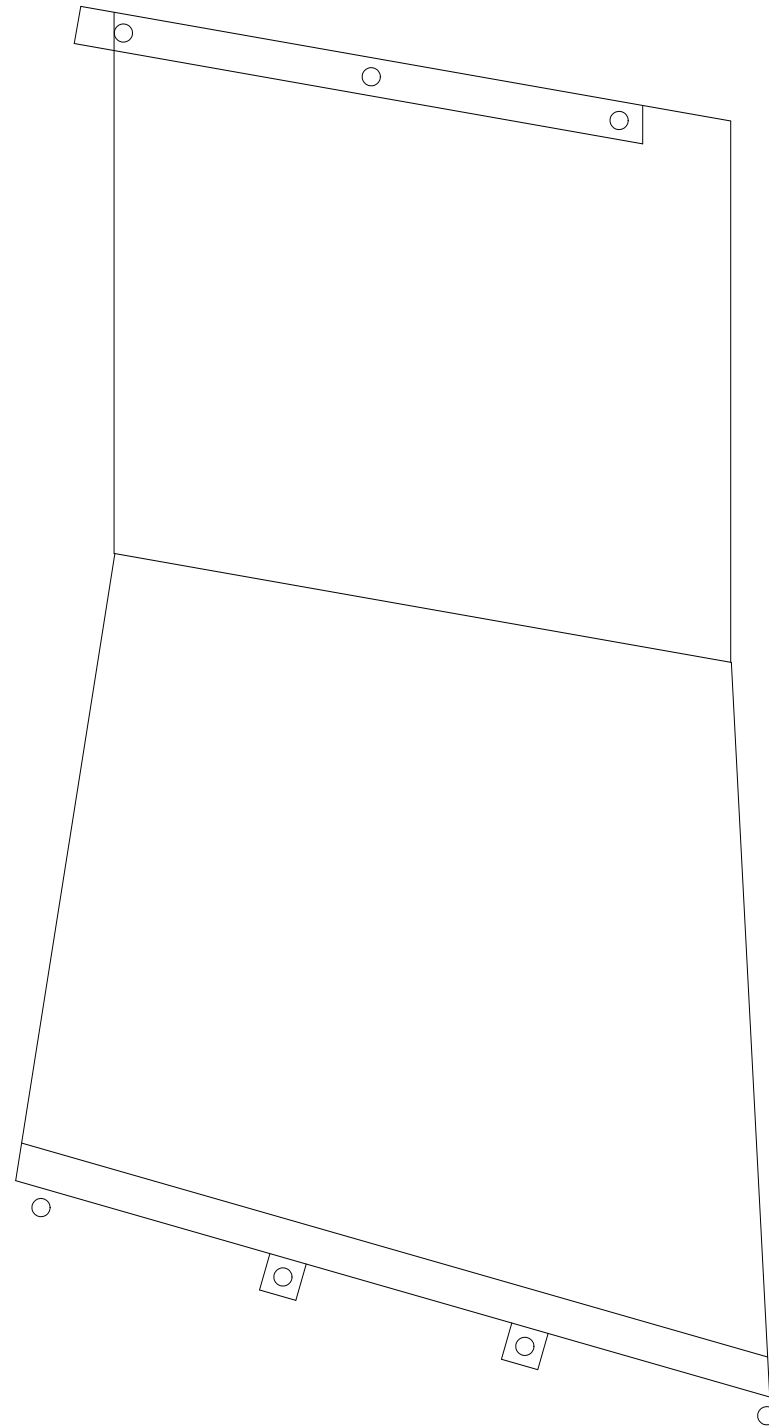
床版下面

起点側

終点側

起点側

終点側



損傷	補修工法
ひび割れ幅0.2mm未満	—
ひび割れ幅0.2mm以上1.0mm未満	ひび割れ注入工
ひび割れ幅1.0mm以上	ひび割れ充填工
遊離石灰	ひび割れ充填工
剝離・鉄筋露出	断面修復工
うき・豆板	断面修復工

凡	例
ひびわれ	
うき	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
豆板・空洞	
漏水・滞水	

注) 足場架設後に現地実測の上、数量を確定すること。
注) 基本的に0.2mm以上のひび割れを補修対象とする。
注) 遊離石灰を伴う箇所は、要調査の上で補修すること。
遊離石灰により、注入が困難な場合はUカット工法（もしくはVカット工法）
で取り除き、ポリマーセメントモルタル埋戻しによる充填工法に変更し補修すること。
注) 記載無きひび割れはひび割れ幅0.2mmを示す。

《ひび割れの線種》	
	ひび割れ幅0.2mm未満
	ひび割れ幅0.2mm以上1.0mm未満
	ひび割れ幅1.0mm以上および遊離石灰

凡例

①	～：ひびわれ注入工法
ア	～：断面修復工法

断面修復面積(左官工法)

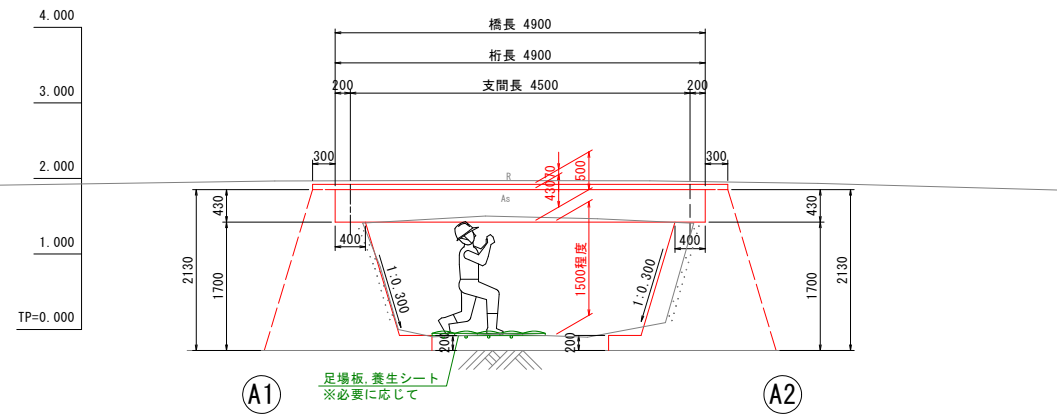
部材	No.	種別	幅 W	延長 L	深さ t	面積 A	体積 V
			[mm]	[mm]	[mm]	[m ²]	[m ³]
主桁0102	アイ	うき	1200	800	50	0.4800	0.0480
主桁0102	アイ	うき	400	500	50	0.2000	0.0100
主桁0102	ウ	鉄筋露出	1400	700	50	0.9800	0.0490
主桁0102	エ	豆板	500	500	50	0.2500	0.0125
主桁0102	オ	豆板	900	500	50	0.4500	0.0225
主桁0102	カ	豆板	250	700	50	0.1750	0.0088
主桁0102	キ	鉄筋露出	1300	1000	50	1.3000	0.0650
主桁0102	ク	うき	500	1000	50	0.5000	0.0250
主桁0102	ケ	うき	600	800	50	0.4800	0.0240
主桁0102	コ	うき	400	400	50	0.1600	0.0080
主桁0102	コ	鉄筋露出	1000	500	50	0.5000	0.0250
主桁0102	ク	うき	600	150	50	0.0450	0.0045
主桁0102	カ	鉄筋露出	400	500	50	0.2500	0.0125
主桁0102	セ	うき	750	400	50	0.3000	0.0150
主桁0102	ソ	うき	500	500	50	0.2500	0.0125

木津姫田線 1 号橋

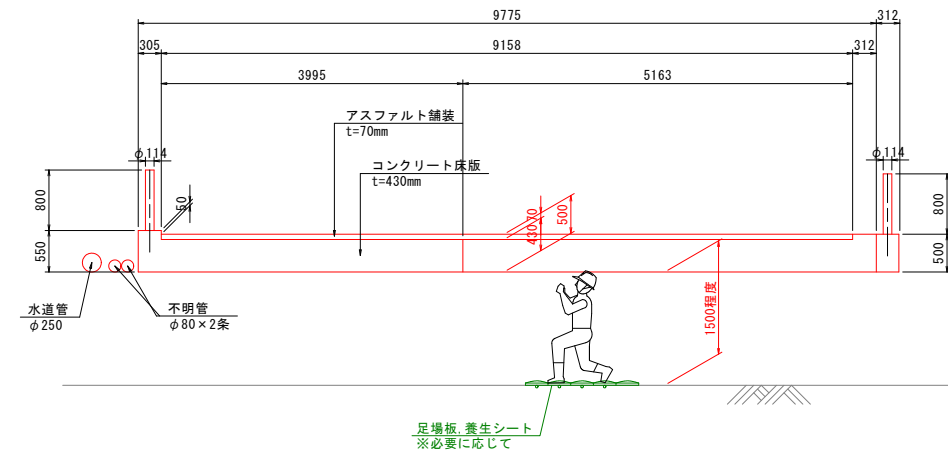
図面番号	第 2 号		図面総数		全 3 葉	
工事名称	木津姫田線 1 号橋橋梁補修工事					
図名	補修詳細図				縮 尺：図示	
製作年月	令和 6 年 8 月		所 属 年 度		令和 6 年 度	
係員	課 長	副課長	係 長	係 員	設計・製図	照 査
鳴門市 都市建設部 土木課						

施工要領図 S=1:50
木津姫田線1号橋

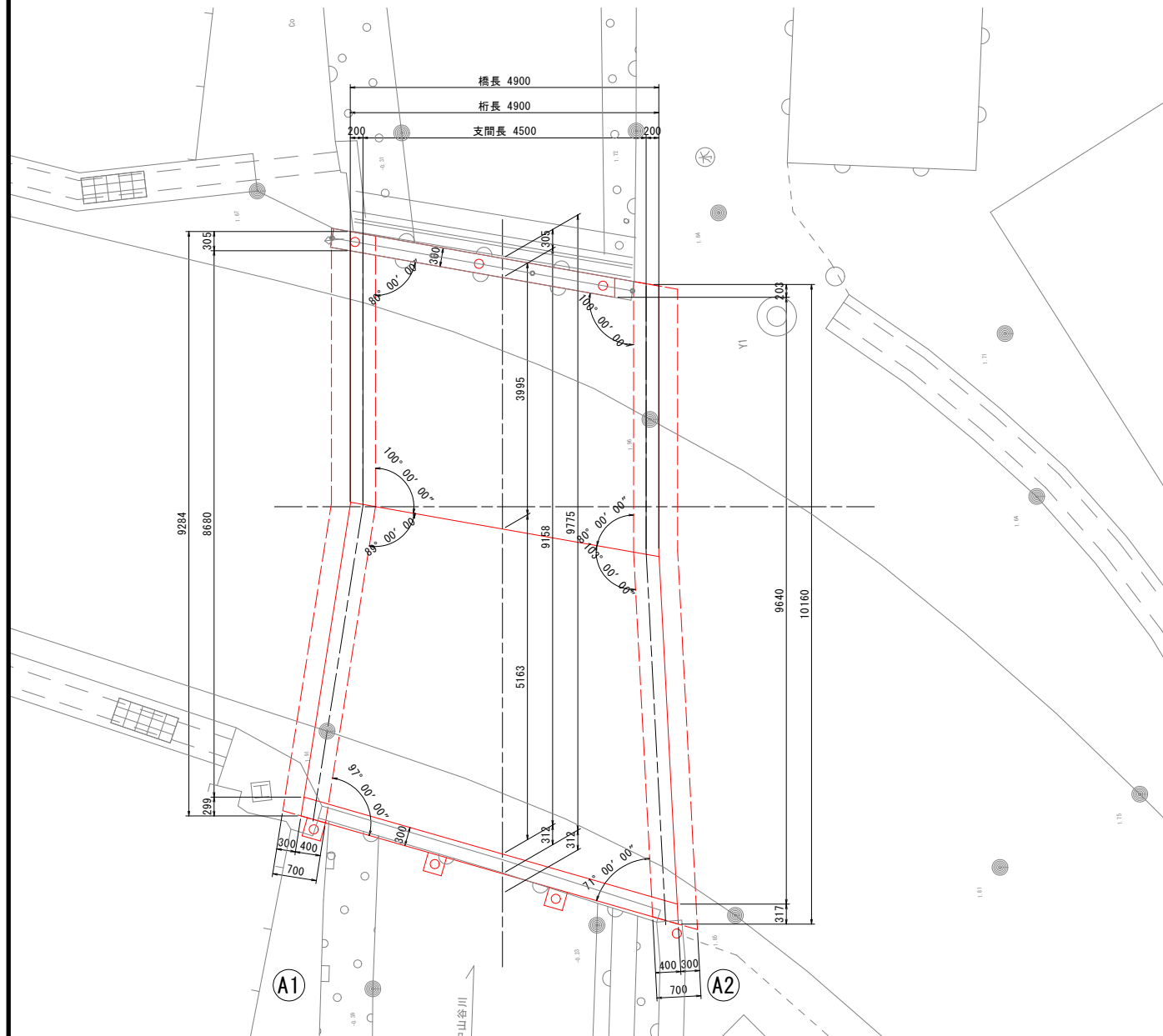
側面図



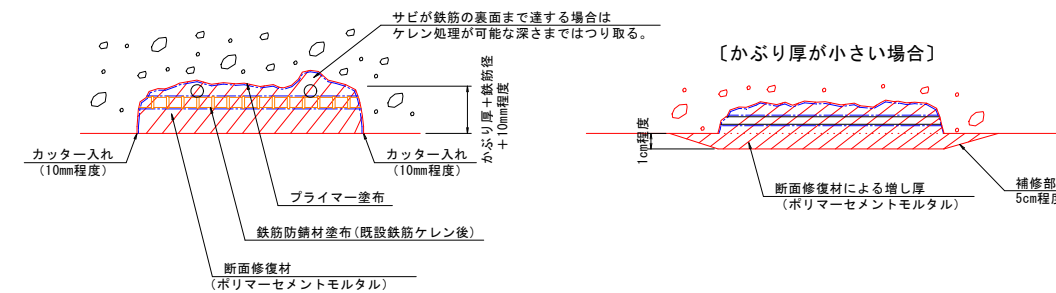
断面図



平面図

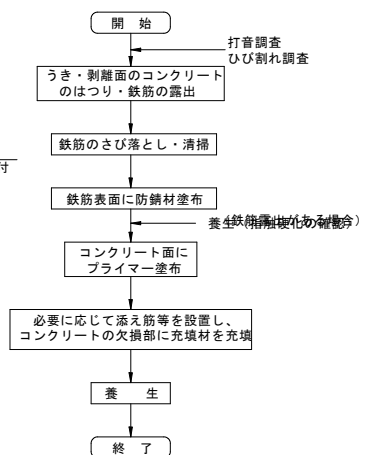


断面修復工詳細図



- ※ 使用する材料の仕様に基づいて施工すること。
- ※ 補修部縁端は、フェザーエッジが生じないようにカッターで切れ込みを入れること。
- ※ 鉄筋のかぶり厚が薄い場合は、ポリマーセメントモルタルで10mm以上は確保するように盛って擦り付ける形で断面修復を行うこと。施工時の番線等の残骸は可能な限り撤去して断面修復すること。
- ※ はつり深さは適宜調整するものとし、脆弱部は完全に除去して充填を行うこと。
- ※ 鉄筋がある場合は、既設鉄筋の背面、既設部材の継ぎ目寸法程度まで除去する。(10~20mm程度)
- ※ 豆板部で粗骨材が露出している部分においては脆弱部ははつり取り、健全部を露出してポリマーセメントモルタル等を塗布や充填して復旧すること。
- ※ はつりを行い、鉄筋が確認された場合は錆を除去した後、鉄筋防錆材を塗布すること。

〔断面修復工法の施工要領〕



木津姫田線1号橋

図面番号	第 3 号	図面総数	全 3 葉
工事名称	木津姫田線1号橋橋梁補修工事		
図名	施工要領図		
製作年月	令和6年8月	所属年度	令和6年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査
鳴門市 都市建設部 土木課			